

指定管理者評価シート

事業名	札幌コンベンションセンター	所管課(電話番号)	経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課 (011-211-2376)
-----	---------------	-----------	---

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌コンベンションセンター	所在地	札幌市白石区東札幌6条1丁目1番1号
開設時期	2003年6月1日	延床面積	20,310㎡
目的	内外の優れたコンベンションの開催の場を提供することにより、人々の来訪や交流を促し、もって地域経済の活性化及び市民文化の向上をはかる。		
事業概要	大ホール、特別会議場その他の施設を使用に供すること。その他センターの設置目的を達するために必要な事業。		
主要施設	大ホール、中ホール、小ホール、特別会議場、会議室(15室)、レストラン		
2 指定管理者			
名称	SORA-SCC共同事業体(代表団体:㈱コンベンションリンケージ、構成団体:㈱東洋実業)		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	公募 非公募の場合、その理由:		
指定単位	施設数:1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、コンベンション誘致業務、施設使用承認業務、事業の計画及び実施業務		
3 評価単位	施設数:1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和7年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 札幌コンベンションセンター条例における設置目的を理解しその実現に向けた取り組みを行った。そのための基本方針として ①札幌コンベンションセンター条例における設置目的を理解し、国際会議・大型医学会及びインセンティブツアーの誘致件数増加、稼働率アップに努める。 ②「地域連携×国際交流」の機会創出を積極的に行う。 ③高品質で環境・利用者に配慮した施設づくりを行う。 以上の3点に取り組んだ。 ①来場者数は、前年度175,371人、今年度279,748人、前年比160%となった。 ・会議別コンベンション件数では、全国が43件開催となり、海外は14件開催となった。規模別コンベンション数では1001人以上が70件となった。 ・次年度以降について、新たに18件の大型学会・インセンティブ・国際学会の札幌コンベンションセンター開催が決まった。	国際・国内会議の積極的な誘致を継続して行った。 札幌市・札幌国際プラザ、札幌コンベンションビューローとの連携を基本に、JNTO・観光庁・北海道運輸局・北海道庁等との情報交換も密に進めた。 ホームページについてウェブアクセシビリティ「JIS X 8341-3:2016」に基づき引き続きAA 準拠を達成した。案内地図の見直しや館内図面等の資料の見直しを行い、アクセス数は71万と前年比104%となった。	A B C D ・全国および海外案件の開催件数や来場者数はコロナ禍前である令和元年度を上回っている。また、令和8年度以降の学会等の誘致活動も精力的に行っており、その役割は果たされている。

②地域連携×国際交流 ・第34回光子電子原子衝突国際会議、第22回国際集団精神療法・集団過程学会にて、札幌コンベンションセンター共催で市民公開講座を開催した。 ・第22回国際集団精神療法・集団過程学会では、茶道体験、折り紙/風呂敷・ひも細工などの日本文化体験プログラムを実施した。 ③高品質で環境・利用者に配慮した施設づくり ・国内MICE施設としては初めてLEED認証O+M GOLDを取得した。 ・設備維持管理においては、通常清掃およびセンター美化活動を前年度同様に行い、施設全般の清潔さを維持・向上し、清掃状況は93.5点と高い評価を受けた。 ・感染症予防対策において国際的な衛生基準を満たした施設として、『GBAC(ジーバック) STAR Facility Accreditation (GBAC STAR™認証)』を継続して取得した。 ・施設職員全員が館の機器制御の仕組みを理解する研修を引き続き行い、エネルギー使用量の抑制に努めた。	国内MICE施設としては初めてLEED認証O+M GOLDを取得することができ、国内他都市にはない強みを持つことができた。	・国内既存MICE施設としては初のLEED認証取得により特別講演やインタビューの依頼があるなど、宣伝効果があり、施設及び都市としてのブランド力向上に繋がったと認められる。 ・国際会議における日本文化の体験機会の提供に加え、GBAC STAR™認証を継続取得するなど、施設利用者の安全面に配慮した施設運営を行っており、要求水準は達成していると認められる。
▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ・センターの運営につき条例や施行規則等によりセンター設立趣旨を再度理解する研修を実施し、法令を遵守し、公正・公平な運営を行う等方針を策定し、徹底をした。 ・またホームページ上では、主催団体より公開許可を得られた催事情報を可能な限り積極的に公開した。	大型MICE誘致と並行して、条例に沿った平等利用の確保に努めた。特に稼働率が高い時期には、主催者と十分に連携し、円滑に利用可能な日程を案内した。	・開催規模を正確に把握し、施設整備を最適に割り振ることによって公正・公平な運営に努めており、要求水準は達成していると認められる。 ・引き続き催事情報の積極的な公開を期待する。
▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ア ガス使用量について ・年間ガス使用量は、前年比113%となった。 ・夏季間(7月～9月)は、各種省エネ対策による冷房負荷の低減と、設備機器稼働時間の調整により削減に努めた。 イ 電気使用量について ・電気使用量は、前年比108%となった。 ・修飾用照明の消灯、空調稼働時間の短縮、換気設備の抑制、網戸換気による温度調節等を実施し、電気使用量の削減に努めた。 ・引き続き、実質再生可能エネルギー100%の電力を導入した。	省エネ対策を引き続き積極的に推し進め、基本的な館内構造は不変の中で各種省エネ対策により、使用エネルギー量低減に努めた。 年間の光熱水使用量は、その年の気温変化、催事の入込状況特に展示会やイベントの件数に左右される。令和7年度については、札幌市に毎年報告している、「原油換算エネルギー使用量」においては、前年比110%となった。	・光熱水使用量については、利用者の増加中に伴い前年度をやや上回ったものの、設備稼働の抑制等による使用量削減に努めるとともに、実質再生可能エネルギー100%電力を導入を継続している。 - また、「電力の地産地消」に向けて関係各所と調整を図り、事業を実現させたことは評価できる。

ウ 電力の地産地消について ・稚内市との連携協定に基づき稚内メガソーラー発電所および札幌市水道局の水力発電由来の再エネ電力導入による「電力の地産地消」を、令和8年度からの導入に向けて関係各所と調整を進め、令和8年4月1日からの導入となった。 エ 水道使用量について ・年間水道使用量は、来館者数が増えたこともあり、前年比126%となった。 ・年間を通して水量調整弁による水量調整、漏水点検等により削減に努めた。 ▼ゴミ分別研修を実施し、ゴミの分別を強化。リサイクル可能なごみを再生ごみに分ける率を高めた。 ▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ▼統括管理責任者を定め、その下で組織整備し、従事者を配置した。 ▼業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。 ▼人材育成においては、年間を通して研修を実施した。 ▼社員研修を以下の通り実施した。 ①ホスピタリティ向上・MICE人材育成に関する研修 ・人材育成及び、マネジメント研修・年間10回実施 ・MICE誘致・営業研修・毎週 ・英語接客研修・1月 ・WebアクセシビリティJIS X 8341 - 3 :2016研修・1月 ・顧客満足度向上研修・1月 ②設備・安全関連の研修 ・設備業務研修・年間12回 ・館内空調設備の特性理解、省エネ対策の講習・9月 ・警備員教育(法定)・7月・2月 ・清掃業務研修(法定)・7月・11月 ・環境配慮・省エネ研修・11月 ・防火管理実務講習会受講・2月 ・テロ対策研修・8月 ・非常用設備取扱研修・3月 ・避難訓練・3月 ▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 共同事業体の定例会議のほか、実務者全体会議、グループ会議等を最低月1回定期的に行うとともに、イントラネット、クラウドストレージ等を利用して情報共有および改善事項・依頼事項等の意見交換を行い、業務の向上に努めた。 交代でホスピタリティ・コストパフォーマンス・安全管理に関する問題提起を行い、見識を深めた。組織横断的な業務改善並びに情報共有を一層強化した。	事業系廃棄物総量は22.9tから18.6tへと減少し、前年比81%となった。再利用対象物比率については36.2%となった。 白石警察署と連携し、大型催事が開催される際の安全対策を講じた。	・事業系廃棄物の総量について、利用者数や開催件数が増加している中で前年と比べて20%程度削減している点は評価できる。 ・各項目において環境に配慮した取組を実践しており、要求水準は達成していると認められる。 ・研修の種類は多岐にわたり、施設の稼働に関するものだけでなく、利用者の利便性や満足度向上を目的とした研修も実施しており、要求水準は達成していると認められる。 ・問題提起を意識的に行う場を設けることで、管理水準の向上を図る組織体制の構築が図れている。
---	---	---

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

レストラン運営事業、舞台技術業務、各種設備保守点検を第三者委託とし、業務が適正に履行されるよう管理監督を行った。委託先とは都度協議を行い、サービスクオリティを向上するための協力を得て、業務履行していることを確認した。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 6月20日	・誘致/営業・主な予約催事 ・令和7年度修繕実施計画 ・HPリニューアル
第2回 9月17日	・誘致/営業・主な予約催事 ・令和7年度修繕実施計画 ・LEED認証取得 ・広報関係
第3回 12月24日	・誘致/営業・主な予約催事 ・令和7年度修繕実施計画 ・LEED認証取得
第4回 3月27日	・誘致/営業・主な予約催事 ・令和7年度修繕実施計画 ・再エネ地産地消
＜協議会メンバー＞ 札幌市・コンベンションリンクージ・東洋実業	

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとに区分経理を実施するとともに共同事業体の代表団体による会計監査を実施している。また、現金の取扱については、取扱規定に基づき適正に管理を行った。

▽ 要望・苦情対応

▼ 要望・苦情対応についてはマニュアルを作成し、職員に周知している。

▼ ホームページ上に「お客様の声」ボタンを設置し、意見を寄せられた方へは迅速に対応し、適切な処理を行った。

▼ 身障者駐車場の台数が不足する場合があります、混雑状況や問合せ状況から判断して入口に近い身障者駐車場を臨時で増やす対応を行った。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼ 施設内にアンケートボックスを設置するとともに、自主事業開催時での配布、催事終了時での主催者への依頼等を積極的に行い、客観的な指針の一つとしてサービス向上に努めた。

▼ セルフモニタリングにより業務改善を行った。

MICEの誘致や開催状況、施設的美観向上、サービスレベルアップ等について、協議・情報提供を行った。

HPリニューアル、LEED認証取得などを通じて、施設の認知度をどのように向上させるかについて、協議を行った。

・委託業務の管理は適切に図れている。

・施設の管理に係る定例の協議事項だけでなく、MICE誘致に係る営業の進捗状況や修繕を要する箇所等の情報共有など、様々な議題について札幌市との情報共有が図れており、要求水準は達成していると認められる。

意見、要望に対しては都度適切に対応し、利用者の立場に立ったサービスの提供を図ることが出来た。

受動喫煙を減らす取り組みについては、平成31年4月1日からのセンター敷地内全面禁煙を受け、主催者への説明だけでなく、来館者への啓蒙を行っている。

電話等の問合せ内容からも来館者のニーズをくみ取ることに努めている。

・資金管理は適切に図れている。

・利用者等の様々な声を拾うことができる体制を整えている。

・アンケートボックスのような受動的に評価を受ける仕組みだけでなく、積極的に利用者のニーズを拾う動きも継続して実践しており、要求水準は達成していると認められる。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上 ▼ 関係法令を遵守し、必要な届出は監督官庁に行なった。 ▼ 職員に対する給与、賃金等の支払を適切に行なった。 ▼ 労働基準監督署からの行政指導を受けなかった。 ▼ サービスの向上のため、各部門別および全体で定期的にミーティングを行った。毎日の朝礼では、安心安全・コストパフォーマンス・ホスピタリティ等を題材に全員が発表を行い、意見交換、意識の向上に努めた。 ▼ ワーク・ライフ・バランスの取組(振替休暇制度やさっぽろ市民子育て支援宣言等)を適切に実施した。	育児時短・育児休業制度を利用して、働き続けられるよう制度・業務の両面からサポートした。 朝礼において各自の気づきを発表することにより業務の分担も進み、適切な総労働時間の維持につながっている。	<table border="1"> <tr> <td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table> ・労働関係法令の遵守については、業務検査及び財務検査により適切に履行されていることを確認しており、要求水準は達成していると認められる。	A	B	C	D
A	B	C	D				
(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ▼ 樹木・外壁等の事故を未然に防ぐため、定期的な外周点検を行い、利用者の安全に努めた。除草剤散布や樹木消毒の際に通行者に影響がないように作業方法を改善した。 ▼ 不審者対応、防災計画、震災時、避難所開設等のマニュアルを整備し、適宜それに応じた研修・訓練を行った。 ▼ 緊急連絡網を整備し、職員並びに札幌市はじめ関係機関に周知をはかった。 ▼ 損害賠償保険は仕様に適合したものに加入した。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 施設・設備等の維持管理については仕様書の通り、業務を遂行した。 ▼ ファシリティマネジメントの観点から予防保全実施項目を札幌市と協議し、施設の経年劣化を最小化し、施設の長寿命化を図った。修繕の優先順位や計画的な予算確保のための情報提供を行った。 ▼ 大ホール・特別会議場屋根金属部補修、真空遮断器更新、立体駐車場スロープ部排水U字溝改修、電力量計交換、エレベーター基盤交換などを行い、施設機能維持・向上に努めた。	各種訓練、研修を継続し、防災・防犯意識の向上並びに来館者・地域住民の安全確保の強化を図った。 維持管理は、法令遵守、安全確保、省エネ推進を大前提に、効果的・効率的に実施した。 美化に関して、仕様基準以上の清掃と共に、美観を損なう箇所・物品の修繕・撤去を積極的に実施している。開館してから20年以上が経過しているが、下見・来館者から、経年よりずっと新しく感じると評価頂いた。	<table border="1"> <tr> <td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table> ・敷地内を通勤等の経路に設定している市民も相当数いるため、安全面に十分配慮しながら美観維持に努めている。 ・本施設は開設から約20年が経過しているが、修繕が必要な箇所やその優先順位について、札幌市と適宜協議することで、効率的な修繕が図れており、美観が維持されている。	A	B	C	D
A	B	C	D				

	▽ 防災 ▼ 消防法の規定に基づき、消防用設備等の点検を実施した。 ▼ 消防用設備の不具合箇所については速やかに改善工事を実施した。 ▼ 防災訓練および職員への研修を実施し職員の意識向上につなげた。 ▼ 札幌市の基幹避難所として備蓄物資の保管など有事の際の体制作りに努めた。 ▼ 基幹避難所の役割強化	ミネラルウォーター備蓄、災害時対応の自動販売機完備等の他、危機管理委員会が継続的に非常時の対応強化に取り組んだ。	・飲料水の備蓄や避難所開設等に係るマニュアルを備えるなど、札幌市の基幹避難所としての役割を担っており、要求水準は達成していると認められる。												
(4)事業の計画・実施業務	▽ コンベンション誘致・営業に関する業務 ▼ 国際会議・国内大型会議・インセンティブパーティーについて積極誘致を継続して行った。国内での開催、又は札幌市での開催が未定の段階から、ビッドペーパー・助成金手続きなど積極的支援を継続した。札幌市内だけではなく、東京の学会事務局やインセンティブ誘致中の代理店等へ積極的に営業を行った。 ▼ 札幌市・札幌コンベンションビューロー・札幌市東京事務所や政府・国連・JNTO・大学研究機関等との連携強化に努めた。 ▼ 国際会議営業については、主に国内都市間競争のための提案書を作成して積極的な誘致活動を行い、現在も引き続きアプローチ中である。 ▼ HPリニューアルを行い、HP上での情報発信を強化した。 ▼ 遠隔地にいる主催者が施設内の様子を簡単に見れるように、3Dバーチャルツアーを新たに導入した。 ▽ 主催者へのサービス提供業務 ▼ 主催者の利便性を高めるワンストップサービスのレベルアップを継続している。従来の事前準備から当日運営に関わる開催サポートに加えて、オンライン配信の提案を積極的に行った。 ▼ 札幌観光協会等と連携し、観光情報コーナーに案内冊子を配架するなどして、積極的に情報提供づくりを行った。また、学会参加者向けに羊ヶ丘展望台の特別割引券を配布した。 ▼ 引き続き、高速Wi-Fiを無料で利用できる環境を提供した。 ▼ 国際会議においては、ハラルやベジタリアンなど様々な宗教や文化に対応した飲食物提供を行った。	開催計画書や収支予算書の作成、会場視察、誘致促進助成金申請のサポートまで幅広く行い、コンベンション誘致・営業活動を行った。 主催者・参加者から好評を得ているワンストップサービスやコンサルティングサービスについても、さらに利用者に周知し、利便性を高めていく。 催事内容を積極的に把握し、必要なサービスやシャトルバス助成金等の提案・情報提供を主体的に行っている。 各事業者との連携を強化したことにより、飲食物提供においては、主催者の希望を円滑に実現することができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・単独での誘致活動に加え、札幌市や札幌コンベンションビューローといった関係機関と連携し積極的に誘致活動に取り組んでおり、要求水準は達成していると認められる。 ホームページをリニューアルし、視覚的に分かりやすいデザインにするとともに、3Dバーチャルツアーの導入により、遠隔地の主催者も施設内を詳細に確認できるようにするなど、情報発信の工夫および強化を行ったことは評価できる。 </td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> ・サービス面を強化することで主催者側の事務負担が減れば、再び会場として選ばれる可能性も高まることから、主体的に食の配慮をはじめとするサービスを提供する取組については、要求水準は達成していると認められる。 </td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	・単独での誘致活動に加え、札幌市や札幌コンベンションビューローといった関係機関と連携し積極的に誘致活動に取り組んでおり、要求水準は達成していると認められる。 ホームページをリニューアルし、視覚的に分かりやすいデザインにするとともに、3Dバーチャルツアーの導入により、遠隔地の主催者も施設内を詳細に確認できるようにするなど、情報発信の工夫および強化を行ったことは評価できる。				・サービス面を強化することで主催者側の事務負担が減れば、再び会場として選ばれる可能性も高まることから、主体的に食の配慮をはじめとするサービスを提供する取組については、要求水準は達成していると認められる。			
A	B	C	D												
・単独での誘致活動に加え、札幌市や札幌コンベンションビューローといった関係機関と連携し積極的に誘致活動に取り組んでおり、要求水準は達成していると認められる。 ホームページをリニューアルし、視覚的に分かりやすいデザインにするとともに、3Dバーチャルツアーの導入により、遠隔地の主催者も施設内を詳細に確認できるようにするなど、情報発信の工夫および強化を行ったことは評価できる。															
・サービス面を強化することで主催者側の事務負担が減れば、再び会場として選ばれる可能性も高まることから、主体的に食の配慮をはじめとするサービスを提供する取組については、要求水準は達成していると認められる。															

(5)施設利用に関する業務	▽ 稼働率等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th><th>R6実績</th><th>R7計画</th><th>R7実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大ホール</td><td>82.4</td><td>80.0</td><td>80.7</td></tr> <tr> <td>中ホール</td><td>73.9</td><td>60.0</td><td>62.9</td></tr> <tr> <td>小ホール</td><td>58.5</td><td>60.0</td><td>45.6</td></tr> <tr> <td>特別会議場</td><td>48.4</td><td>60.0</td><td>47.4</td></tr> <tr> <td>会議室(15室)</td><td>84.7</td><td>60.0</td><td>93.3</td></tr> <tr> <td>来館人数</td><td>175,371</td><td></td><td>279,748</td></tr> </tbody> </table> ▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件 ▽ 利用促進の取組 ▼会場の空きがないと回答した主催者へ、別な日程の提案やキャンセルが出た際の案内を的確に行い利用につなげた。 ▼また催事内容を見て特別会議場での開催が適する場合は、特別会議場を利用いただけるよう努めた。 ▼施設の経年劣化の対策として、予防保全を行った。また貸出備品の営繕、備品の新調等協議をしながら行い、利用者の不便を軽減させることが出来た。 ▼日本語と英語の新しいパンフレットを主催者へ適宜配布を行った。	名称	R6実績	R7計画	R7実績	大ホール	82.4	80.0	80.7	中ホール	73.9	60.0	62.9	小ホール	58.5	60.0	45.6	特別会議場	48.4	60.0	47.4	会議室(15室)	84.7	60.0	93.3	来館人数	175,371		279,748	稼働率について、大ホール・中ホール・会議室は目標を上回る結果となった。来館者数については、来館者数が多い大型催事が続いたこともあり、前年度よりも大幅に増えた。 施設利用希望者からの問合せに対して、柔軟に日程・会場を提案し、稼働率向上を図った。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> ・稼働率について、大ホール・中ホール・会議室は計画値を上回る一方で、小ホール及び特別会議場は下回る結果となったが、来館人数が前年比1.6倍に増加したことは一定の評価ができる。 ・諸室別稼働率の各目標を達成すべく、ソフト・ハードの両面で利用促進を図っており、要求水準は達成していると認められる。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	・稼働率について、大ホール・中ホール・会議室は計画値を上回る一方で、小ホール及び特別会議場は下回る結果となったが、来館人数が前年比1.6倍に増加したことは一定の評価ができる。 ・諸室別稼働率の各目標を達成すべく、ソフト・ハードの両面で利用促進を図っており、要求水準は達成していると認められる。			
名称	R6実績	R7計画	R7実績																																				
大ホール	82.4	80.0	80.7																																				
中ホール	73.9	60.0	62.9																																				
小ホール	58.5	60.0	45.6																																				
特別会議場	48.4	60.0	47.4																																				
会議室(15室)	84.7	60.0	93.3																																				
来館人数	175,371		279,748																																				
A	B	C	D																																				
・稼働率について、大ホール・中ホール・会議室は計画値を上回る一方で、小ホール及び特別会議場は下回る結果となったが、来館人数が前年比1.6倍に増加したことは一定の評価ができる。 ・諸室別稼働率の各目標を達成すべく、ソフト・ハードの両面で利用促進を図っており、要求水準は達成していると認められる。																																							
(6)付随業務	▽ 広報業務 ▼ ホームページについて、日本語・英語ページの全面リニューアルを行った。加えて、新たに「札幌のサステナビリティに関するあゆみ」を掲載した。 ▼ GBAC STAR認証を取得していることに加えて、国内既存のMICE施設としては初めてLEED認証O+M GOLDを取得したことをHPに掲載した。 ▼ ウェブアクセシビリティ「JIS X 8341-3:2016」準拠を継続した。 ▼ アクセス件数：前年度681,032件、今年度705,172件、前年比104%となった。 ▼ 施設内に設置している情報コーナーやポスター掲示コーナーには、札幌市の施策にかかる情報を積極的に広報した。デジタルサイネージを活用し、情報表示も行った。 ▼ 各種委員として活動した。 ・さっぽろ MICE 推進委員会 ・札幌市国際観光誘致事業実行委員会 ・札幌市国内観光プロモーション実行委員会 ・白石区ふるさと会(役員)	HPリニューアル、3Dバーチャルツアー導入を行い、情報発信を強化することができた。 ホームページは引き続きAA準拠を達成するとともに、常に最新の情報を提供するよう心掛けた。 館内サイネージ、情報コーナー、ポスター掲示コーナーにおいては札幌市の施策にかかる情報を積極的に掲示した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> ・ホームページのリニューアルにより情報発信の内容を強化したほか、アクセス数が継続して増加していることは評価できる。引き続きホームページのアクセシビリティ向上や内容の充実に期待したい。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	・ホームページのリニューアルにより情報発信の内容を強化したほか、アクセス数が継続して増加していることは評価できる。引き続きホームページのアクセシビリティ向上や内容の充実に期待したい。																															
A	B	C	D																																				
・ホームページのリニューアルにより情報発信の内容を強化したほか、アクセス数が継続して増加していることは評価できる。引き続きホームページのアクセシビリティ向上や内容の充実に期待したい。																																							

	▼ 研修・見学など受け入れ、各種協力 ・国際会議、大型医学会、インセンティブパーティーなどの視察対応を行った。 ▼ 羽田空港での看板広告を継続掲出し、空港利用者に対して認知度アップに取り組んだ。 ▼ 市営地下鉄東西線「東札幌駅」の副駅名のネーミングライツを取得し、「札幌コンベンションセンター前」という看板を掲出したことで、札幌コンベンションセンターの認知度アップを図った。 ▽ 引継ぎ業務 (引継業務なし)		・本市が誘致する国際会議の視察等への対応は非常に協力的であるほか、羽田空港での広報や地下鉄副駅名の掲出により同館の認知度向上に取り組んでおり、要求水準は達成していると認められる。
--	--	--	--

2 自主事業その他

▽ 自主事業

▼自主開催(共催、後援、協力含む)

月	名称	形態
6月	白石区ふるさとまつり	共催
7月	第34回光子電子原子衝突国際会議市民公開講座	共催
8月	第22回 国際集団精神療法・集団過程学会市民公開講座	共催
1月	ジュニア・プログラミング・ワールド2026	共催
3月	こども仕事体験フェスタin札幌	共催

▼飲食物販

●レストラン事業を行った。

●災害時対応型、省エネ対応型、社会貢献型(ピンクリボン、白石区ふるさと会寄付)、バリアフリー型、犯罪被害者支援型の設置を行った。

▼その他手数料収入等

●弁当・ケータリングサービスを行った。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

▼第三者委託はおおむね市内企業に発注した。

▼管理業務には、障がい者を雇用した。

1-(1)左記記載の通り、自主事業を開催した。白石区ふるさとまつりは約16,000名、ジュニア・プログラミング・ワールド2026は約4,500名が参加した。

A	B	C	D
国際会議や地域の催事との共催事業等を実施し、施設の認知度向上や来場者数の増加に寄与しており、要求水準は達成していると認められる。今後もコンベンションセンターの設置目的の達成に資する事業の実施を期待する。			

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	施設内にアンケートボックスを設置するとともに、利用者及び来場者に対してアンケートを実施した。 5段階の回答を数値換算して100点満点とし、各項目90点以上を目指した。(目標回答件数300件に対し、回答件数441件)	
結果概要	①センターの総合的な印象について	91.7点
	②スタッフの対応について	91.1点
	③サービスの提供について	91.3点
	④センターの清掃状態について	93.5点
利用者からの意見・要望と	・素晴らしい施設と、スタッフの方の親身な対応に感謝いたします。また継続して利用していきたいです！今後もよろしくお願いいたします。 ・いつも利用させていただいております。札幌市内での価格は安価であり施設全体とても居心地が良く快適に使用することが出来ておりますので今後も継続利用させていただきたいと存じます。 ・殆どがワンフロアで完結出来て良い。展示会場も十分な広さがあって良い。	

全ての項目において要求水準を上回った。

会場利用者の希望・要望を参考に施設運営を行い、目標値を上回る結果となった。

A	B	C	D
・各項目90点以上という、札幌市が求める80点以上という水準を大きく上回る目標を達成しており、要求水準を大幅に超えていると認められる。			

4 収支状況

▽ 収支				A B C D			
				(千円)			
項目		R7年度計画	R7年度決算	差		(決算-計画)	
収入		589,611	718,889	129,278			
指定管理業務収入		552,022	666,061	114,039			
指定管理費		0	0	0			
利用料金		311,169	268,916	▲ 42,253			
その他		240,853	397,145	156,292			
自主事業収入		37,589	52,828	15,239			
支出		450,426	583,585	133,159			
指定管理業務支出		396,172	404,378	8,206			
自主事業支出		54,254	179,207	124,953			
収入-支出		139,185	135,304	▲ 3,881			
利益還元		120,000	120,000	0			
法人税等		17,714	14,001	▲ 3,713			
純利益		1,471	1,303	▲ 168			

大型インセンティブパーティーの開催、ワンストップサービスの取り込みを強化したことにより、収入が計画を上回った。

観光庁の補助金に応募し、外部資金の獲得にも積極的に取り組んだ。

・全体の収支及び指定管理業務の収支は計画を上回っており、要求水準は達成していると認められる。

▽ 説明	
▼利益還元について	
●札幌コンベンションセンターの管理に関する協定書第17条に定める利用料金の納付等に基づく利益還元該当	

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持		適	不適
▼選定時と同様、安定経営能力を維持している。			
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適	不適
▼ 利用申込者に渡す利用案内に暴力団排除の文言を入れている。			
▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。			

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】

総合評価	来年度以降の重点取組事項
誘致活動について、札幌市と札幌コンベンションビューローとの連携や、代表団体の全国ネットワークの活用により、2026年度以降の国際会議・大型学会・インセンティブパーティーの誘致に取り組んだ。また、市内他施設との連携を強化し、市内全体を会場とするような大型MICEの誘致にも取り組んだ。 既存の国内MICE施設としては初めて『LEED認証O+M GOLD』を取得し、施設の運用・保守における環境性能向上への継続的な努力が国際的な基準で高く評価された。また、国際的な衛生基準である、『GBAC STAR™認証』を継続して取得し、国際的な水準の衛生環境を整えた。再生可能エネルギーを100%使用した電力の導入、太陽光発電による外部からの導入電力量の低減、遮熱フィルム貼付による室内温度上昇の軽減等を行い、環境に配慮した施設運営に取り組んだ。 情報発信を強化していくために、HPの全面リニューアル、3Dバーチャルツアーの導入を行った。高速Wi-Fiの無料提供も継続し、来場者の利便性向上に取り組んだ。	長期的な視点では、札幌コンベンションセンター設立の趣旨に沿って、国際会議・国内大型会議・インセンティブパーティーを始めとした、経済効果の高いMICEの誘致・開催を実現し、札幌市の経済的な発展に貢献する。 札幌市や関係団体、宿泊施設等との連携を強化し、札幌開催の魅力を高めることで、大型案件やリピート開催の獲得を目指す。 市内MICE施設や観光・交通事業者と連携し、会議・宿泊・観光を組み合わせた提案を行うことで、札幌市全体の受入体制と都市競争力を強化する。 『LEED認証』と『GBAC STAR™認証』の両認証を維持し、札幌コンベンションセンターが国際的な水準を満たしていることを効果的に発信し、国際的なMICEの誘致を実現する。 ICT環境やサービス品質の向上、ホームページ等による情報発信を強化するとともに、先端技術イベントやeスポーツなど新たな需要を取り込み、施設稼働率と認知度の向上に繋げる。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
・誘致活動に関しては、本市や札幌コンベンションビューロー、市内他施設との連携により、日々国内外のMICE誘致に注力しており、評価できる。 ・施設管理に関しては、美観の維持や、GBAC STAR™認証の継続取得での衛生環境整備に加え、既存の国内MICE施設初となる「LEED認証O+M GOLD」を新たに取得し、第三者からも評価される高水準の環境に配慮した運営がなされており、評価できる。 ・施設利用者の情報収集が容易になるようHPのリニューアルを実施したほか、高速なWi-Fi環境整備は、主催者・参加者のニーズとしても高いことから評価できる。	・誘致活動については、市内関係者との連携を更に強化し、手法や効果を検証することで効率化を図るとともに、プロモーション活動の積極的な実施を期待する。 ・施設管理に関しては、現水準を維持しつつ、環境に配慮した取組をさらに漸進させるとともに、認証取得に係るブランド力のPRを積極的に実施し、利用者ニーズを的確に把握し、観光庁の補助メニュー等を活用するなど柔軟に対応することを期待する。